

BE WILD

2009.03 活動報告

日本ボーイスカウト阿見第1団
<http://www.bs-ami.net>



● 第1回茨城県ベンチャーラリー出場

🌀 進歩制度って、実は・・・

「自分のカヌーは、自分で漕げ!!」
というB-Pの言葉があります。

ある本には、その続きとして「カヌーが壊れたら、自分で泳ごう。泳ぎながら、どうしたら助かるのか、良く考えよう!」と書かれていました。今の社会では、なんて無責任なんだ!なんて声が聞こえてきそうですが(笑)。ですが、これが、本当の「進歩制度」なんですよね。(B-Pの言葉の本当の意味は違うところにあります。それは隊長にきいてくださいね。)

さて、では壊れないカヌーを作るにはどうしたらいいだろう、そもそもカヌーは壊れるし、ひっくり返るものだよな。ってことは、泳ぎができなくちゃまずいな。どんな状況で泳ぐのかな?・・・。静水なワケはないから、川で流されるんだろうな。クロールよ

りも平泳ぎかなあ。あ、着の身着のままじゃ耐えられないから、ライフジャケットは当然着けなくちゃ、それはどこにあるの?どうすれば借りられるの? う～ん上手な流され方ってあるのかな? それと、岸が上がったとき、きっと体が冷えてるだろうから、たき火をしなくちゃ。マッチの防水加工もしなくちゃ。都合良く流木があればいいけれど、きっと濡れているから、ライターの方がいいかな。火が着きやすくするには表面削って「ささくれ」をつくらなくちゃ、そうだナイフも必要だ。濡れないようにビニール袋に入れて、ひっくり返ったときに失くさないところは・・・と。

このようにどんどん想定が膨らんでいきます。これって楽しいでしょ? みんなで頭を寄せ合ってワイワイガヤガ



ヤとこういうことを考えること、それをみんなで話し合っ、その対策を考え、それをあーだこーだと試行錯誤しながらみんなで楽しんで準備すること、そしてそれを実行し、失敗し、反省評価して、「今度こそ!」につなげる・・・それが「進歩」の本当の姿なんじゃないでしょうか。初めに進歩課目ありきじゃないんですよ。楽しい活動するためにやらなきゃならないことがあって、それをやったら、進歩してた! 進歩課目に繋がった・・・です。おお、プログラムと進歩が直結しちゃいました。

BVS 隊の 3 月の活動

●ビーバースカウト隊

幼稚園年長～小2：8月

● ヤッホー!!「宝篋山ハイキング」

3月29日(日)

カブ隊と一緒に筑波山の隣の宝篋山へハイキングに行きました。

実際はハイキングと言うよりは登山に近いものでした。登った距離は約3kmほどですが、かなり急なところもあり、スカウト達よりも大人たちの方がきつそうでした。

途中、五条の滝、こころの滝、白滝、葵の滝でマイナスイオンを大いに浴びて、心を癒し、大岩群ではみんな無口になりながら、岩を登っていきました。山桜の森で、ピバ弁とトン汁を食べ、いよいよ頂上へ。まだ桜が咲いていなかったのは残念でしたが。

山頂からは四方の景色が一望でき、特に間近で見る筑波山にはみんな感動しました。疲れがいっぺんに吹っ飛んでしまったようです。



CS 隊の 3 月の活動

●カブスカウト隊

小2：9月～小5：8月

● 寒さと楽しさの両立

3月8日(日)、まだまだ寒く、桜も震えてつぼみもしぼむくらい冷え込んだ日でしたがカブスカウトはいつでも元気一杯、今回の活動は、竹馬作りとカーレースの2本立てで行いました。

各自それぞれマイ竹馬を作製し、芝生広場でさっそく試し乗りをしました。学校で竹馬に乗ったことのあるスカウトと、全く初めてのスカウトと経験の差が最初はありましたが、しばらく練習した結果、1歩、2歩、3歩と上手にバランスをとって、乗れるようになり、最後は全員が、マイ竹馬に乗っている記念撮影しました。

午後は隣の芝生広場の周回路を使用してカブF1レースを行いました。参加したスカウトは誰もがヤル気マンマンで、パイロットとエンジンの2人1組でペアーを組みました。結構長い周回コースを途中で役割りを交換したりして、上手に乗りこなしました。



レースは1周をどれくらいの時間で回ってくるかを競う、タイム・アタック・レースで行い、見事優秀組の輝いたのは、青山・村上ペアーでした。このレースやってみると解りますが、エンジンになって一周丸々押すともう顔面蒼白、言葉も出ないくらい激しく体力を使います。エンジンになっていたリーダー、団委員の皆様お疲れ様でした。次の日の仕事に、影響はなかったでしょうか？

● 目指すは TOP

3月29日(日) ビーバー隊と合同の活動で筑波山系宝篋山へ登山に行きました。

予想ではちょうど桜の花満開の中での、お花見登山となるはずでしたが、花冷えとかまだまだ、肌寒い中での登山となりました。また、インフルエンザにかかり数名がドタキャンになりましたが、参加したスカウト、リー

ダーは皆元気に明るく(最初は)登り始めました。登山道の途中にある沢の滝で癒され、大きな岩に驚かされながらも、無事、登りきりました。昼食には、団委員さんの用意してくれた暖かい豚汁をいただき、疲れを吹き飛ばして、元気パワーを満タンにしました。

山頂からのなんともいえない、見事なパノラマに感動し、筑波山をバックにみんなで記念撮影しました。

今回の登山は登りと下りのコースが違う道となり、下りはなだらかなハイキング・コースという感じで、皆、足取りも軽く、途中の宝篋名水では、うまい水でのを潤しました。

スカウト、リーダーがそれぞれに充実感と達成感をたっぷり味わえた、中身の濃い登山だったと思います。今回参加できなかったスカウト、リーダー、保護者の方も、一度は宝篋山に登って見て下さい、「近くに、こんなにきれいな景色を眺められる山があるんだなー」と思っただけのこと請け合いです。



BS 隊の 3 月の活動

●ボーイスカウト隊

小5：9月～中3：8月

● スワロー班活動

3月25日

スワロー班は、今年度最初の活動として、「鎌倉」に班旅行をしました。キャンプで担当となっている、ゲートのアイデアのヒントを得ることも今回の目的の一つです。

参加者は5人＋付き添いリーダーでした。鎌倉では、お寺を巡ったり、江ノ電に乗ったりと楽しんだようですが、最も夢中になっていたのは、どうもハトへのえさやりらしいとの情報をキャッチ。

ゲートのことはすっかり忘れ、旅を満喫してきてしまったようです。残念ながら写真はありません。

● 春の基礎訓練キャンプ

3月28～29日

今回のキャンプは、寒の戻りといいますがとっても寒い中でのキャンプとなりました。春休みということで、午前中から設営を始め、午後はちょっと時間をかけて立ちかまどを作りました。2班とも、ちゃんとかまどとして使えていたようです。



2日目は、ちょうど県のベンチャーラリーという大会が行われましたので、そのお手伝いをちょっとだけ行いました。C.P.でベンチャーが通過するのをチェックするのですが、なかなかベンチャーはやってこず、待ち疲れしました??? ということで、スカウト諸君、今度の夜間ハイクでは、あんまりリーダーを待たせないように迷わず来て下さい!



● ハヤブサ班集会 4月5日

ハヤブサ班は、出店で出そうと計画している魚肉ソーセージフルトの味の選定を行いました。

オーソドックスなケチャップ、ピザソースから甘いもの系のジャム、練乳、蜂蜜、果てはわさびなど様々なトッピングにトライしてみました。

結果は、予想に反して、意外とおいしいものばかり。いくつか?なものもあったけど、いろいろな味付けを楽しめることを発見できました。

本番もぜひとも出店したいけど、無事できるのでしょうか???



VS 隊の 3 月の活動

●ベンチャースカウト隊

中3：9月～高3：8月

● ベンチャーラリー2009

春うららの2009年3月29日(日)。IVY-League (Ibaraki Venture and Youth Scout League : 茨城県連の任意組織) が主催する「ベンチャーラリー2009」開催された。

これは、4人1チームで繰り広げられる自動車競技の「ラリー」そのものであった。参加チームは11チーム。県内から腕に覚えのある強豪?が集結した。我が阿見1団ベンチャー隊もローバー混合チームとして参加した。

コースは、阿見のふれあいの森をスタートして、阿見の君原地区周辺を廻るコースである。地元チームであることから、他のチームやスタッフからさまざまプレッシャーを受ける。スタート時間が近づくにつれて寡黙になる阿見1チーム。

さて、スタートから、各チームとも色々な工夫を凝らしてスタートする。

まあ、ある意味ハイキングの競技である。道に迷いコース上からいなくなったり、他のチームを当てにして一緒に迷走するなど、数々の珍事件が連発したが、競技は無事に終了。

優勝は、ベンチャー部門が取手2団(右下写真)、オープン部門が土浦2団ローバー隊、総合優勝が土浦2団ローバー隊であった。

・・・で、阿見1団ベンチャー隊はというと・・・非常に残念ながらオーバータイムになり、途中失格となってしまったのでした。

毎週練習を行ったが非常に残念な結果となってしまった。

「来年こそは!」優勝とはいかないまでも表彰台には上がるぞと、ちょっとだけ決意した非常に寒い夕暮れであった。ちなみに余談ではあるが、表彰台は取手2団の杉浦副長と村田ベンチャー隊長が夜な夜な作成した傑作?品(重量規定に問題はあったが)であっ

た。我ベンチャー隊の優勝を祈願して、何人(なんびと)たりとも足を着けさせることがなかったのだが、むむむ、実に残念であった。

さて、今回は、「役割分担」と「責務(つとめ)」を知ったのではないかと思う。「つとめをはたし」とスカウトソングの歌詞にもあるが、スカウトはそれぞれが与えられたことを責任を持ってやり遂げる。このことをこのベンチャーラリーに参加することで実感できただけでも非常に有意義な一日だったのではないかと思うが、いかがかな?ベンチャー諸君!



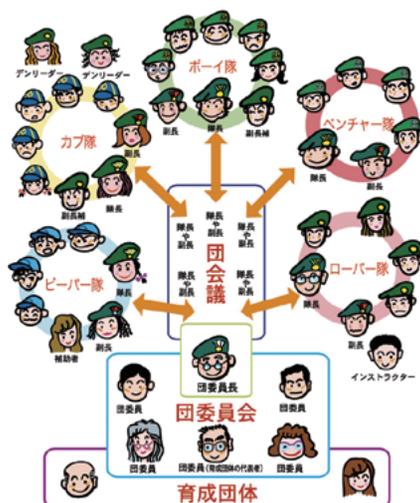
FAQ 団や隊の指導者の構成と任務

指導者について

Q 団はどういう構成になっているのですか？

A まず、右の図を見てください。これが標準の団の構成です。

団には、団の維持運営を担う「**団委員会**」と、スカウトの教育を担当する「**隊**」があります。隊は、スカウトの年齢に応じて5つ部門が設けられています。



●ビーバースカウト隊

小学校入学直前の9月～小学2年8月まで

●カブスカウト隊

小学2年9月～小学5年8月まで

●ボーイスカウト隊

小学5年9月～中学3年8月まで

●ベンチャースカウト隊

中学3年9月～高校3年

●ローバースカウト隊

18歳から25歳まで

この各隊は、スカウトの教育を担い、隊指導者等が置かれます。

育成団体は、既設の団体、あるいは特にスカウト教育のために組織された成人の団体で、奉仕の精神をもって、団を設立し、かつ、その存続を維持し、また教育に必要な施設と経費について責任を負う、団の基盤となる団体です。

団委員会は、育成団体がスカウトの保護者等から選任した5人以上の団委員と育成団体の代表者の団委員で構成します。団委員会は、団の資産管理、財政管理、教育支援、指導者の選任・訓練参加の援助、健康・安全、加盟登録、スカウトの進歩の促進、スカウト運動の主旨の普及等の責務を持ちます。

Q 団にはどんな指導者がいるのですか？

A 団には、団の維持運営を担う「**団委員**」と、スカウトの教育を担当する「**指導者**」がいます。（「**団指導者**」とは、この両者をいいます。）

指導者とは、「**隊**」でスカウト教育に関与する成人の加盟員を総称して言い、その役割によって次の様に呼ばれています。

●**隊長** 隊の活動全般を指導する責任を持ちます。

●**副長** 隊長を補佐し、特定の任務を

分担します。

●**副長補** 特定の任務を分担します。

●**補助者** ビーバー隊で隊長・副長に協力して活動の支援をします。

●**デンリーダー** カブ隊で、組の活動を推進し、家庭におけるカブ活動のために保護者を援助します。

●**団委員長** 団を代表し、団を維持し、各隊の育成発展に努めます。

●**団委員** スカウトの保護者等から5人以上と育成団体の代表者で構成され、団の運営を行います。

これらの指導者たちは、すべてスカウト運動の主旨に賛同し、スカウトの教育に情熱を持って、無償で活動するボランティアです。

特に隊長は、隊長としての任務を果たすためのトレーニングを修了した成人です。副長も進んでトレーニングを受けることが望まれています。

また、団を支援する組織として、地域ごとに複数の団が集まった「**地区**」、また都道府県を単位とした「**県連盟**」が設けられています。それを「**日本連盟**」が総括しています。

地区や県には、指導者を指導・支援するコミッショナーがおかれ、指導者の研修会であるラウンドテーブルを開催したり、個別に相談にのったり、指導をしたり、団や隊の活動を支援しています。

Q 指導者はどんなことをしているの？

A 指導者は、大きく次の3つのことをしています。

●隊の運営

隊で活動をするためには、たくさんの仕事をしなくてはなりません。例えば、年間や月間の活動計画の策定、活動費の管理、活動や進歩の記録、家庭や他の隊との連絡・調整、指導者の研修計画、集会場の確保、活動器材等の管理等・・・があります。これらの仕事は隊長を中心に、副長や他の指導者たちが分担して行います。連絡等の仕事は保護者をお願いすることもあります。

●活動の計画・準備・実施・反省・評価

スカウトには限りない可能性があります。その可能性をいろいろな活動に参加し楽しく体験することで、それに気づかせ、更にはそれを自ら深めていくことがスカウティングのやり方です。

そのため、指導者たちはスカウトたちの良い個性と資質を引き出すプログラムを考え、また悪い性格を抑えスカウト自身が自ら律していけるような環境を提供できるように日々研究しています。指導者の会議にその成果を持ち寄り、長期～短期の活動プログラムを作っています。

●研修

スカウトの好奇心や知識欲を満たす楽しいプログラムを作るには、その部門のスカウトの特性を十分に把握しなくてはなりません。また、スカウトたちの興味がどこにあるかを常にリサーチして、スカウトたちを惹き付けるテーマを設けることで、月々の活動の期待を高め、スカウトたちの参加へのモチベーションを高めています。

そして、スカウトたちが少しでもよい資質を身につけられるよう、また幅広い視野がもてるよう、そしてそれを自ら育てていくことができるように習慣づけられるようにするには、指導者自身も幅広い知識と経験と指導法等を獲得している必要があります。そのために、指導者たちはいろいろな研修に参加したり、本を読んだりして日常的に研究を重ねています。